

じんけんネット吹田 この1年

* 常任委員会 (4・7・11・2月)



総会(5月)



憲法と市民のつどい(5月)

5月20日(土)メイシアターにおいて、「ありのままの姿を描きたい」～映画「アイ・ラブ・ユー」を通して～と題して、映画監督の大澤豊さんにご講演をいただきました。ワイワイコーラスの皆さんの歌声もさわやかに響きました。



「協力企業部会」活動

- (4月) 講演 「企業と人権」
講師 安藤 正彦さん
- (6月) 講演 「企業は人材を生かしているか」
講師 蛭崎 政司さん
- (9月) 4回にわたり市民ひゅーまんセミナーに参加

* 市民ひゅーまんセミナー (9月)



「マンガの中の障害者たち」
永井 哲さん



「大地の紙芝居」ポトウア
東野 健一さん

市民ひゅーまんセミナー (9月)

4回にわたって、各分野の専門の方をお招きして、人権の課題について、多くの市民の方とともに考えました。

* 地区委員会代表研修会 (9月)

9月23日(土)、解放会館において地域における人権啓発の推進役としてご活躍中の皆さんを中心に57名の参加を得て、講師の藤原さんから、ご自身の体験談や差別の本質、人権感覚の大切さについてご講演をいただきました。



「施設の子どもたちと暮らして」
北條 正治さん



「被差別部落の青春」
角岡 伸彦さん

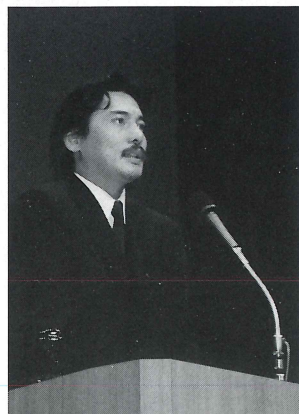
* 地域安全・青少年育成市民大会 (10月)

* 駅頭啓発活動 (12月)

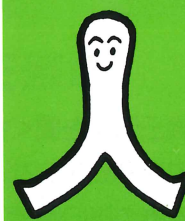
* 人権フェスティバル (12月)

人権フェスティバル (12月)

「地域から心をつなぐ人権の輪」をテーマに、メイシアターにおいて、『スポーツと社会』と題して、平尾誠二さんにご講演をいただきました。また、ピッコロ フィオーリさんの皆さんのさわやかな歌声に、心が癒されました。



2001年人権カレンダー作成 (12月)



吹田市

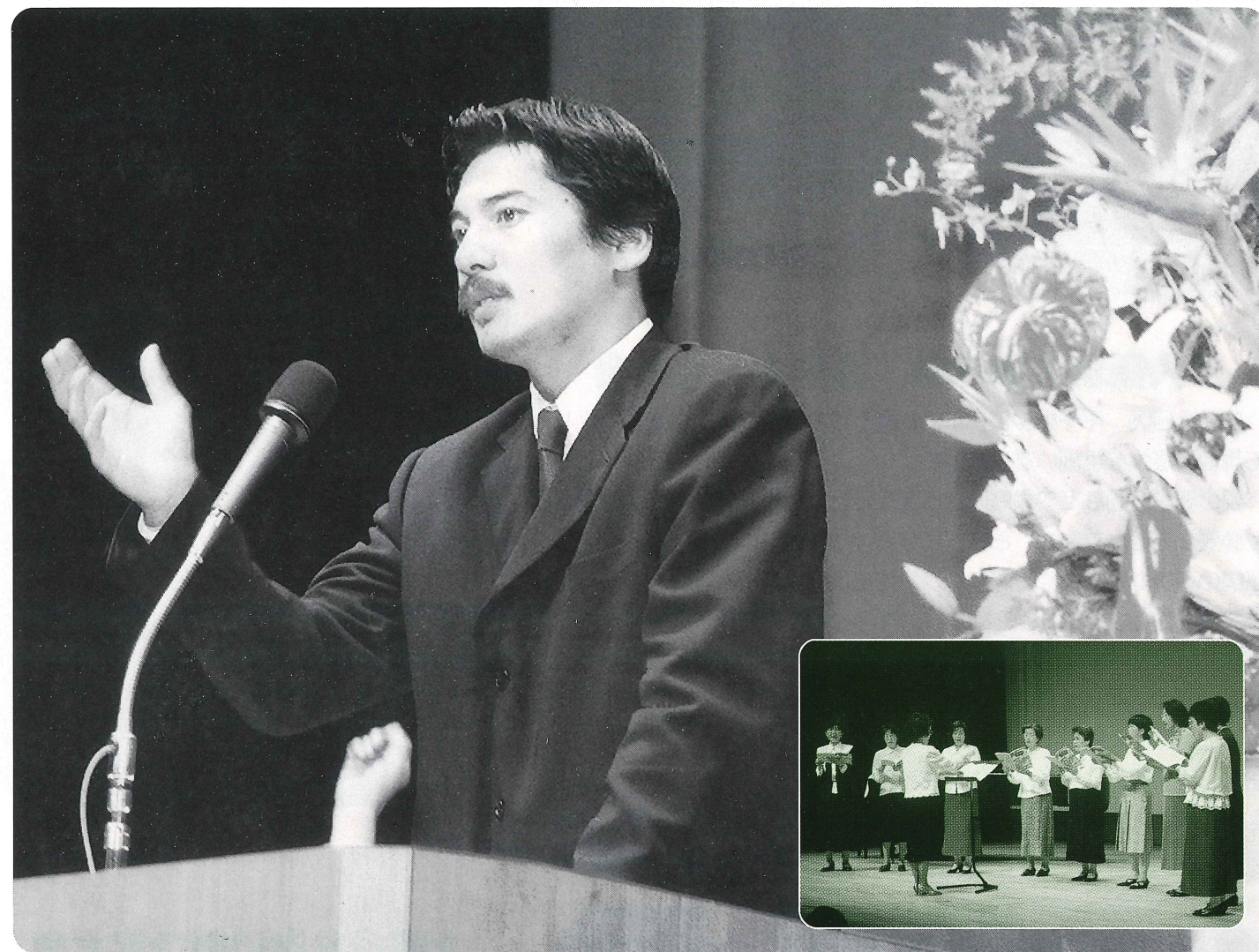
人権協だより



じんけんネット吹田

No. 10

平成13年(2001年)3月



“人”、「おたがいが支え合う」ことが“人権尊重”なのです!



吹田市人権啓発推進協議会

会長 田 中 充

“人”という文字は、“ノ”と“ゝ”が、“バランス”よく「おたがいが支え合っている」姿にたとえられます。“人”は、この“バランス”をくずさないように、おたがいの人格や立場を尊重し、支え合わなければなりません。“人”は、すべてみな、ただひとりで生きて行けるものではないのです。

21世紀は、「人」みな同じ」という立場から、ますます地球規模でおたがいが支え合ってものごとを考え、そして、望ましい行動をしなければならなくなってきています。吹田市では、市民のみなさまを中心に『人権フェスティバル』をはじめ地区ごとに“人権尊重”のまちづくりのための活動が積極的に行われてきています。なお一層のご支援をお願いいたします。



「大阪水上隣保館 遙学園」見学会

12月5日(火)、千一小学校PTA役員との共催で、遙学園を中心として現地研修会を実施いたしました。

親の問題行動などで家庭にとどまることが出来ずに、社会的な保護が必要な子どもたちが、さまざまな思いを抱えながら生活をしている。感情のぶつかりあいや、関わり方で悩む施設職員、体当たりで取り組む保育士さんなどのお話を聞き、大きなショックを受けたのは私一人だけではなかった。現在乳幼児から高校生まで200名の子どもたちが暮らしている中、その内25名いる0歳から2歳児の殆どが親の虐待によるとのこと。暴力が小さな子どもに及ぼす傷の大きさ、子育ての大切さ、親子の絆など多くのことを考えさせられた一日でした。今後とも引き続き人権を尊重する地域活動の輪を広げて行きたいと思います。

(千一地区委員会 辻本興一)



人権ふれあい餅つき大会

私たちは、人と人とのふれあいを大切にし、命が尊ばれ、ひとり一人が幸せに共に生きることのできる社会をめざして、ささやかではありますが日々活動を続けています。その一環として、毎年一月に吹一小学校の校庭で「人権ふれあい餅つき大会」を行っています。

今年は1月27日(土)、吹一小PTA、吹一地区公民館との共催で行いました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、地域福祉センターから身障者の方々をご招待して、幼児、小学生、近隣住民の皆様も含め約150名が参加してくださいました。みんなでお餅をついたり、丸めたりして、お互いに交流を図り、楽しい一日を過ごすことができました。

(吹一地区委員会 山本暢子)

「津軽三味線の集い」

人権週間に先立って、津軽三味線を聞く集いを秋も深まった11月30日(木)の夜、吹六公民館で行いました。遠くヨーロッパまで海外公演もなさる津軽三味線の久保比呂誌さんと天平以来の伝統楽器である龍笛(りゅうてき)奏者の出口煌玲(こうれい)さんの国際的なお二人に、私たちの小さな町の小さな集会室に来ていただいたのです。

今は亡き津軽三味線の名手、高橋竹山さんのお話などを交えながらの弾き語りは、ほのぼのと温かい語り口ながらも、厳しい生活の中で鍛えぬかれた民衆芸術の骨太な迫力で圧倒されました。また、同時に演奏された龍笛は天平の空高くいざない、集会室にぎっしり集まった私たちは魅了されました。

(吹六地区委員会 福井博夫)



出会 発見 感動 に

子ども映画会

7月23日(日)、垂水会館さわらびホールにて、豊一地区公民館との共催で、幼稚園児、小学生を対象に、夏休みの良き思い出にと、子ども映画会を開催しました。映画は、「ライオンキング」と「負けへんで/6年3組の阪神大震災」の2本を上映しました。

「ライオンキング」は動物を主人公にしたもので、子どもも大人も楽しめました。「負けへんで/」は阪神大震災をテーマに実在した小学校のクラスをアニメ化したもので、震災にあわれた多くの人達の悲しみや、命の尊さを伝えて行けたらと思いました。

映画を通して、私たちが人権のあり方を伝える事の必要性や、子どもたちに平和の大切さ、命の大切さを理解して、お互いに痛みが分かちあえる心を持つてほしいと願いながら、会場を後にする子どもたちの後ろ姿を見送りました。

(豊一地区委員会 小西玲子)



講演「親の目、子の芽、地域の眼」

激動の20世紀が終りに迫った11月26日(日)、地区推進委員を対象に「親の目、子の芽、地域の眼」と題して、皇学館大学助教授、臨床心理士の向出佳司先生のご講演をいただきました。

21世紀は、人権、環境の時代と言われており、特に21世紀を担う子どもたちに関わる教育問題が課題とされております。子どもの教育は学校だけに頼る時代は去り、学校教育法が見直され、教育改革関連法が新しく制定される今日、専門的見地から約2時間にわたりご指導をいただきました。受講者からは、本当に素晴らしく楽しかった、分かり易かった、もう少し時間があれば等々の感想が多く聞かれました。

これからの学校教育は、学校、家庭、地域それぞれの連携が必要だと痛感した研修会でした。

(桃山台地区委員会 内田順之)

